安全のために必ずお守りください。

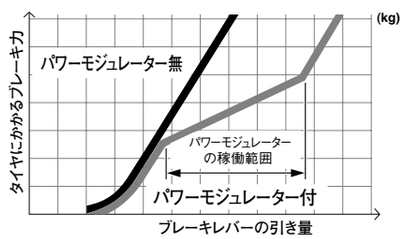
⚠ 警告

- 自転車のブレーキは製品のモデルによって取扱いが多少異なることがあります。したがって、ブレーキレバーへの入力や自転車の操作特性などを含め、個々の自転車のブレーキ系統の適切な操作を充分理解し慣れるようにしてください。
  ブレーキ系統の操作が適切でないと、自転車のコントロールを失い事故のもとになり、また大怪我を招くとも限りません。適切な操作については、自転車専門店にご相談いただき、また自転車の取扱い説明書もよくお読みください。ご自分の自転車にお乗りになって、ブレーキ操作などを練習していただくことも大切です。
- 前ブレーキを強くかけると前輪がロックし、自転車が前方向に転倒して重傷を負う可能性があります。
- 後用のブレーキを前ブレーキにはご使用できません。
- **製品を取付ける時は、必ず取扱い説明書等に示している指示を守ってください。**またその際、シマノ純正部品の使用をお勧めします。
  ボルトまたはナット等が緩んだり、製品が破損すると、突然に転倒して重傷を負う場合があります。
- ブレーキシューに油脂が付かないように注意してください。シューに油脂が付いた場合はシューを交換してください。ブレーキが効かなくなって危険です。
- ブレーキケーブルはサビあるいはほつれが無いか点検し、ある場合は速やかに交換してください。ブレーキが効かなくなり危険です。
- 乗る前には必ず前後のブレーキが正しく作動するかどうか確認してください。
- 雨天時は制動距離が長くなります。スピードを控えて、早めの滑らかなブレーキ操作をしてください。
- 路面がぬれていると、タイヤがスリップしやすくなります。タイヤがスリップすると転倒して危険ですので、スピードを控えて、早めの滑らかなブレーキ操作をしてください。
- 取扱い説明書はよくお読みになった後、大切に保管してください。

⚠ 注意

パワーモジュレーターは、ある一定範囲のブレーキ力に対して、ブレーキレバーの引き量を増やすことにより、ブレーキのコントロールをしやすい状態にする装置です。
もしパワーモジュレーターの稼働範囲を超えた場合には、通常のVブレーキ（敏感でパワフルなブレーキ）になります。この場合、ブレーキが効きすぎて車輪がロックする場合がありますので、パワーモジュレーターの機能特性を充分ご理解・ご体験されたうえでお使いください。
このように**パワーモジュレーターは、車輪のロック防止装置ではありません。**

パワーモジュレーターのブレーキ性能



BR-T660に関するお願い

⚠ 警告

- BL-T660 / ST-T660（3フィンガーレバー）ブレーキレバーには、VブレーキにSM-PM70パワーモジュレーターを使用してください。パワーモジュレーターを使用しないと、極端な効きすぎを起こす可能性があり大変危険です。

使用上の注意

- ブレーキとブレーキレバーは、推奨のセットで使用することにより、最も効率よくマルチコンディションシステムの性能が発揮されます。
- ブレーキシューの溝が無くなるまで摩耗した時には、シューを交換してください。
- ブレーキシューにはそれぞれ特性があります。ブレーキシュー購入時に販売店にご相談ください。
- 通常の使用において自然に生じた摩耗および品質の劣化は保証いたしません。
- 取扱い方法及びメンテナンスについて疑問のある方は、購入された販売店にご相談ください。

ご使用方法　SI-8FM0A-002

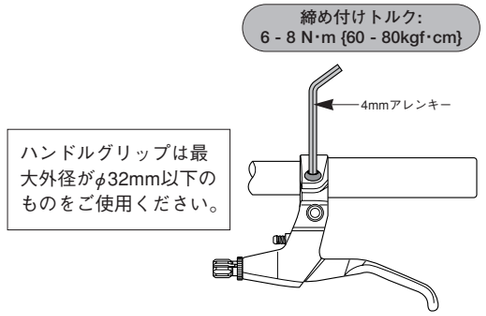
ブレーキシステム

機能を充分に発揮させるために、次のラインナップによる使用を推奨いたします。

ブレーキレバー	BL-T660（3フィンガー） ST-T660（3フィンガー）
Vブレーキ	SM-PM70付 BR-T660
ブレーキケーブル	

ブレーキレバーの取付け

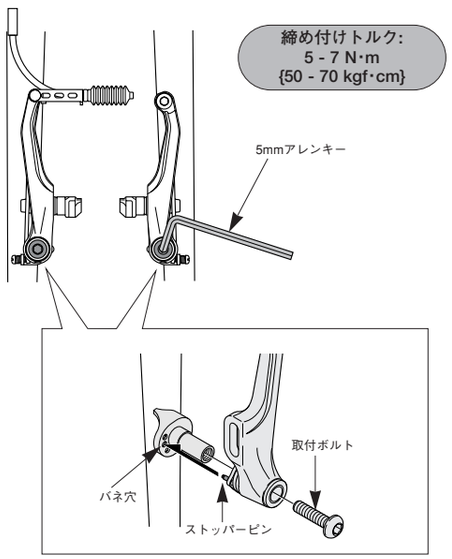
4mmアレンキーを使用して取付けます。



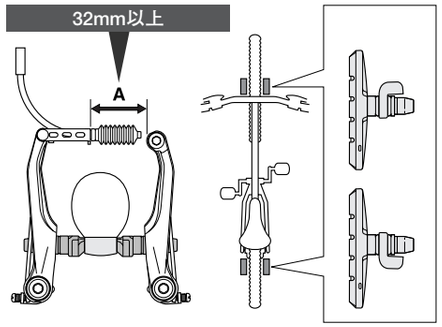
推奨締付けトルクにおいても、カーボンハンドルの場合には、ハンドルへの損傷ならびに固定不十分となる可能性があります。適切なトルク値に関しては、完成車メーカーまたはハンドルメーカーでご確認ください。

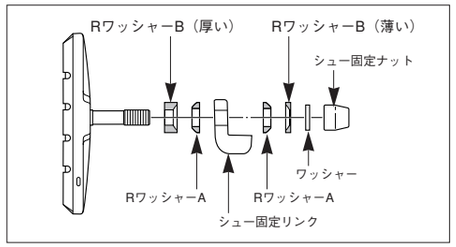
Vブレーキの取付け

1. フレーム台座のバネ穴のまん中に、ブレーキ本体のストッパーピンを入れ、ブレーキ本体を取付ボルトでフレームに固定します。

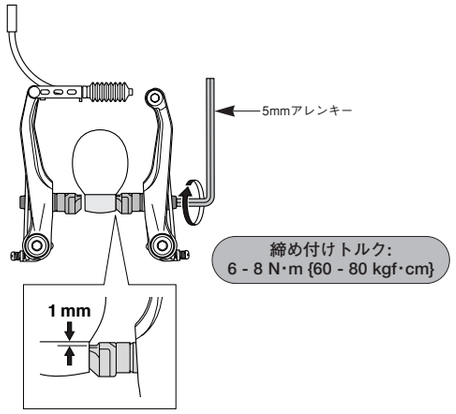


2. シューをリムに押し当てた状態で、A寸法が32mm以上確保できるように、RワッシャーB（厚い/薄い）を入れ替えて、シューの出代を調整します。
（SM-PM70パワーモジュレーターをご使用の場合も同様です。）

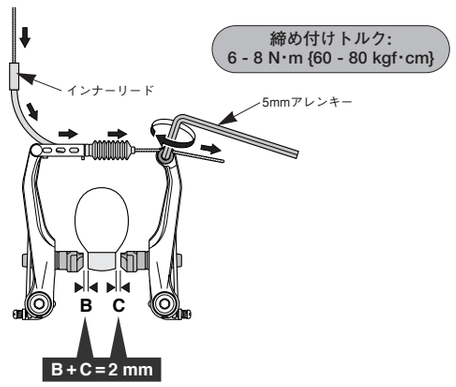




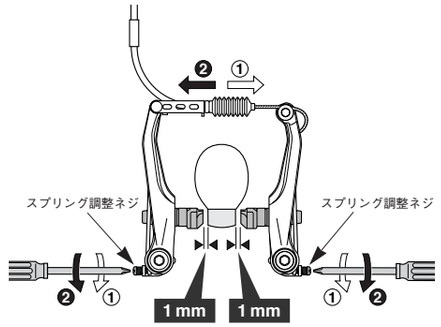
3. シューをリムに押し当てた状態で、シュー固定ナットを締付けます。



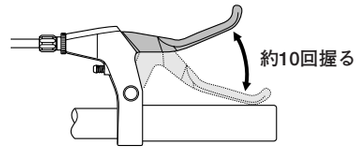
4. インナーケーブルをインナーリードに通し、シュークリアランスの左右合計が2mmの状態で、ケーブル固定ボルトを締付けます。



5. スプリング調整ネジでバランス調整をします。

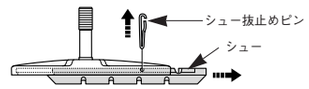


6. ブレーキレバーをグリップにつくまで約10回ほど握り、各部に異常がないことと、シュークリアランスを再確認してからご使用ください。

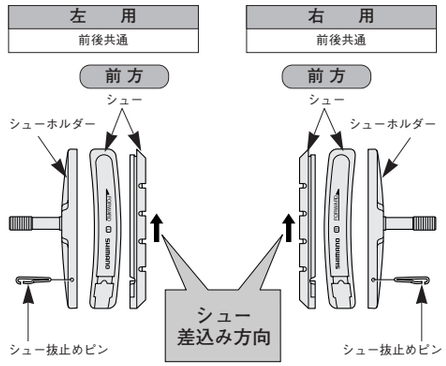


カートリッジシューの交換

1. シュー抜止めピンを取り外し、シューホルダーからシューを溝にそって抜取ります。



2. シューホルダーとシューには、右用・左用があります。方向とピン穴の位置に注意し、新しいシューを溝にそって入れます。



3 シュー抜止めピンを確実に差込みます。

* 取扱い説明書は以下にてご覧いただけます。
http://techdocs.shimano.com
製品改良のため、仕様の一部を予告なく変更することがあります。

お客様相談窓口
☎ 0570-031961　Fax. 072-243-7847
株式会社シマノ
堺市堺区老松町3丁77番地 〒590-8577